

平成28年11月定例記者会見要旨（平成28年10月26日開催）

## 1. 坂出市のまちづくりにおける演劇の活用について

文化庁および日本演出者協会が主催で行う演劇大学は、第一線で活躍する演出家・俳優等を講師に招き、子どもから大人、初心者から演劇経験者を対象に、多岐にわたって楽しめる体験講座を短期集中的に行い、地方ではあまりなじみのない演劇を身近に感じてもらおうというもので、昨年より3年間の予定で、香川県で初めて本市で開催している。

昨年は、市内からの参加者が半数近くを占め延べ487名の参加があり演劇・ダンス・戯曲作成・声優・朗読等の講座が開催された。今年は「狂言」「劇団運営」の講座を新たに加え、314名(市内2割)の参加があった。今年は講座の内容がより深く、実践的になっていたので市外からの参加者が多くなったのではないかと考えている。

この演劇大学が、全国で活躍されている著名な講師陣から短期間ながら直接指導が受けられる場となっていることも画期的なことではあるが、演劇を1つのツールとして参加者同士が世代や地域の枠を超えて活気ある交流ができる場にもなっている。

来年の2月には地元劇団が商店街の店主のエピソード話、店の特徴等を題材として15分程度の短編演劇を商店街の中で上演予定であり、演劇で商店街のかたがたとの交流を深めている。私自身も、若い世代と一緒に演劇を経験しているが、何も無いところから作品を創りあげる「独創性」、一体的に作品テーマを目指す「協調性」、が必然的に求められ、演劇によってコミュニケーション能力が大きく養われることを強く実感している。

本市の独自性をアピールするために、アートや音楽も含め、芸術関連のイベントや公演を行うことにより市民が芸術に触れる機会を増やすことで、にぎわいを創出し、本市の活性化に繋がりたい。また演劇をとおしてコミュニケーション力を養い高めることで、新たな地域のコミュニティの形成にも寄与できるのではないかと考えている。